

日本腹部救急医学会 平成22年度定例第一回評議員会 議事録

平成22年3月18日(金) 17:30～18:00

ANAクラウンプラザホテル富山3階「鳳」

1：理事長挨拶（議事録署名人指名）

平田理事長より、挨拶がなされた。

日本腹部救急医学会（以下、本学会）評議員定数が358名のうち、出席者217名、委任状出席113名、欠席29名であることを確認し、評議員会が委任状を含めて評議員の1/2以上の出席を満たしており成立している。評議員会（以下、本会）を開始する。

平田理事長より、議事録署名人として、谷 徹 評議員（滋賀医科大学）、村田厚夫 評議員（高知医療センター）が指名され、同2名の承諾と参会者の同意を得た。

これ以降の本会議事進行については、第46回総会会長の塚田一博教授にお願いする旨を確認し議事に入った。

2：庶務報告

木村康利事務局幹事より報告がなされた。

平成21年2月20日現在の総会員数は5105名。

平成21年2月21日以降、本年の2月20日まで、新入会303名、退会173名、退会者の内訳は本人申出165名、逝去8名。

平成22年2月20日現在、5,235名。

（内訳：役員・評議員357名、理事長1名、理事12名、監事2名、幹事2名、名誉理事長2名、名誉会員42名、特別会員66名、正会員4,749名）

物故者（H21.2.21～H22.2.20に届出があったもの）

泉山 史貴	イズミヤマ フミカ	（泉山診療所）	09/1/11	逝去
神谷 順一	カニヤ ジュンイチ	（豊田厚生病院）	09/8/1	逝去
神津 照雄	コウツツ テルオ	（千葉大学医学部光学医療診療部）	08/6/2	逝去
小久保 佳明	コクボ ヨシアキ	（岐阜大学医学部第三内科）	09/6/27	逝去
榑原 幸雄	サカキバラ ユキオ	（松山城東病院）	08/6/23	逝去
佐竹 克介	サタケ カツカ	（大阪市立大学）	09/3/21	逝去

早坂 滉 ハヤカ ヒロシ	(札幌医科大学医学部第一外科)	10/2/19 逝去
三輪 剛 ミヅ タケシ	(東海大学医学部内科)	09/7/1 逝去

本会において、黙祷が捧げられた。

### 3. 各種委員会報告

#### A. 財務委員会

安田秀喜担当理事より報告がなされた。

平成21年度収入の部（対予算比%）

平成21年度の会費収入は41,107,000円(91.8%)、事業収入は50,154,846円(105.1%)。ここで印税収入が100万円の予定だったが、これは『急性膵炎のガイドライン』が印税と返品とで相殺されて0円になっている。また、第45回本学会総会の参加費と協賛金は21年度から本学会本体の会計に入ることになったため、ここに入っている。収入合計は91,734,881円(98.6%)であった。前年度繰越金が74,451,128円で、総収入合計は166,186,009円であった。

平成21年度支出の部（対予算比%）

支出も同様に第45回総会の会場費、運営費、事務局費、補助金が入り、非常に事業支出が多くなっている。『急性膵炎の診療ガイドライン』の英文化委員会の予算が2,000,000円に対し2,402,775円(120%)であった。また、倫理委員会の郵送費630,000円に対し、支出されなかったが22年度に支出される予定である。次に大規模多施設の臨床研究費の予算1,000,000円に対し、昨年3月までに研究が終了したため支出として計上されなかった。総支出合計予算97,293,000円に対し、95,940,948円(98.6%)で、当年度収支差額は-4,206,067円であった。次年度繰越金は、70,245,061円(100.1%)となった。

貸借対照表と財産目録について

資産の部合計が77,884,673円、負債の部合計が4,639,612円であった。

上西紀夫監事より、以上の平成21年度本学会会計について問題がないことを跡見裕監事とともに確認したと述べられた。

本会において、平成21年度収支決算が承認された。

安田秀喜担当理事より、平成22年度予算案が示された。

#### 収入の部

平成22年度会費収入42,000,000円（評議員90%支払い見込み、正会員75%支払い見込み）  
事業収入42,100,000円。第46回総会収入が3,800,000円を予定しているため多くなっている。広告収入1,500,000円、別冊収入2,000,000円、印税収入600,000円。これは『第3版急性肺炎ガイドライン』が今年度初めに入る予定になっているため予算計上している。第46回総会収入が38,000,000円、雑収入1,270,000円とし、収入合計は85,370,000円と見込んでいる。

#### 支出の部

第46回総会支出45,000,000円、機関誌発行費20,000,000円、機関誌発送費3,200,000円と従来通り予算を計上している。また学会賞が従来400,000円であったが、編集委員会より、学会賞が二人、奨励賞が一人で700,000円の予算で組み込まれている。

個人情報保護確認作業費については現在進めており、その費用を630,000円としてここに計上している。支出合計が89,810,000円となり、2年続けてマイナスとなる。事業収入が非常に大きく、繰越金が多いと課税対象となり得ることから、繰越金を減らすという趣旨でこのようになっている。以上次年度繰越金が65,805,061円という予算案である。

本会において、平成22年度収支予算が承認された。

#### B. 在り方委員会

宮川秀一担当理事より、報告がなされた。

本学会の法人化は専門医制度構築には必須となるため、検討事項として提案させていただいた。Acute Care Surgeryを担う若手医師が不足しており、何らかの形でそのような若手医師の育成システムを構築していく必要があるとの提案をさせていただいた。また、学術総会運営機構については、経費削減の観点から重要であり、今後の課題と考えている。

#### C. 規約委員会

安藤久實担当理事より、報告が成された。

現在、法人化に向けて定款を作成中であるが、現在の会則第10条では、理事の定数が明文化されておらず、定款では明文化する必要があるため、その数について現在検討中である。また、利益相反の取扱規定を文章化する必要があり、本委員会で検討を行なった。

#### D. 編集委員会

安田秀喜担当理事より、報告がなされた。

##### ①論文の投稿状況について

2009年は原著16編、症例報告77編の93編（採用率90.1%）であった。原著論文確保の為、第45回総会（亀岡会長）の座長に原著となり得る演題を推薦していただき発表者に投稿を勧め、2009年度も原著の投稿数が16編（2007年度は9編）あった。第46回総会（塚田会長）についても同様に座長推薦をお願いする。投稿から採用までの期間は、平均約4ヶ月（2～6ヶ月）、採用から掲載までの期間は平均約3ヶ月（2～4ヶ月）である。

##### ②2009年度学会賞および奨励賞について

編集委員会、選考委員会の審議を経て、以下の如く決定した。学会賞は候補論文のうち獲得得点上位2編に絞られたが、得点差が1点差であったことも考慮し、理事長承認のもと2編とも学会賞とした。第46回日本腹部救急医学会会期中の評議員会にて表彰式を行う。

##### 学会賞受賞者

日本腹部救急医学会雑誌 29 巻 5 号 p. 697～702, 2009 年 掲載

原 著「大腸穿孔緊急手術症例に対するリスクマネージメントとしてのスコア による評価法」

帝京大学ちば総合医療センター外科 小杉千弘

日本腹部救急医学会雑誌 29 巻 7 号 p. 957～963, 2009 年 掲載

原 著「大腸穿孔の予後因子とエンドトキシン吸着療法の適用についての検討」

栃木県済生会宇都宮病院外科 鹿股宏之

##### 奨励賞受賞者

日本腹部救急医学会雑誌 29 巻 1 号 p. 111～114 掲載

症例報告「真性多血症患者に発症した特発性脾破裂の1例」

総合守谷第一病院外科 益子一樹

##### ③オンラインジャーナルの公開、オンライン投稿・査読システム導入について

現在、投稿、査読のオンライン化を進めている。本年10～11月に査読システムが完成するため、試験運用を行い、来年早々には始動する。完成後は、雑誌、本学会ホームページ

に掲載予定である。なお、オンラインジャーナル化に伴う雑誌（印刷物）の必要性に関する会員へのアンケート調査は、当初の予定を延期し2010年を目途に実施する。

#### E. 倫理問題検討委員会

幕内博康担当理事より、報告がなされた。

倫理問題検討委員会では、腹部救急医療の現況に対する全国調査を予定している。腹部救急医療に関する現況を集計分析し、倫理問題を探ると共に、将来の展望、そして腹部救急医療の発展に資することを目的とする。次に本学会の定款の第15条に「処分」については除名処分のみが記載されている。他の様々な倫理問題があるため、詳細について今後検討したいと考えている。

#### F. 評議員選考委員会

織田成人担当理事より、報告がなされた。

本年度本学会新評議員の申請者は42名であった。審議の結果、下記42名の先生を本学会新評議員として認定した。

1. 阿部 勝 東京女子医科大学救命救急センター 准講師
2. 荒武 寿樹 東京女子医科大学 第二外科 准講師
3. 池永 雅一 国立病院機構 大阪医療センター 外科 医師
4. 石塚 満 獨協医科大学 第二外科 学内講師
5. 出石 邦彦 香川大学医学部消化器外科 准教授
6. 伊東 昌広 藤田保健衛生大学 消化器第二外科 准教授
7. 井戸 弘毅 大隅鹿屋病院 外科 院長
8. 井上 和明 昭和大学藤が丘病院 消化器内科 准教授
9. 岩瀬 史明 山梨県立中央病院 救急科
10. 太田 哲生 金沢大学附属病院 消化器・乳腺外科（旧第二外科） 教授
11. 大坪 毅人 聖マリアンナ医科大学 外科学消化器一般外科 教授
12. 加地 正人 東京医科歯科大学医学部附属病院 救命救急センター 講師
13. 片野 素信 東京医科大学茨城医療センター 消化器外科 講師
14. 加藤 悠太郎 国際医療福祉大学三田病院 外科・消化器センター 准教授
15. 河原 秀次郎 東京慈恵会医科大学 附属柏病院 外科 講師
16. 小島 豊 順天堂大学 下部消化管外科 助教

17. 小谷 穰治 兵庫医科大学 救命救急センター 教授
18. 坂本 一博 順天堂大学医学部 消化器外科（下部消化管外科） 教授
19. 左近 賢人 西宮市立中央病院 外科 院長
20. 末廣 剛敏 福岡県済生会八幡総合病院 救急医療センター総合診療部 部長
21. 杉本 真樹 神戸大学大学院医学研究科内科学講座 特命講師
22. 鈴木 英之 日本医科大学 外科 准教授
23. 瀬谷 知子 日本医科大学千葉北総病院 外科 講師
24. 武田 宗和 東京女子医科大学 救急医学 講師
25. 竹山 廣光 名古屋市立大学 消化器外科 教授
26. 徳村 弘実 労働省健康福祉機構 東北労災病院 外科 副院長
27. 内藤 広郎 みやぎ県南中核病院 外科 病院長
28. 妻 正寛 東住吉森本病院 外科 医員
29. 羽井佐 実 岡山市立市民病院 消化器外科 消化器外科部長
30. 橋本 拓造 東京女子医科大学 第二外科学教室 助教
31. 畠 二郎 川崎医科大学 検査診断学 内視鏡・超音波部門 教授
32. 藤崎 滋 医療法人社団 藤崎病院 理事長・院長
33. 藤澤 稔 順天堂大学医学部附属練馬病院 総合外科・乳腺外科 准教授
34. 松谷 毅 日本医科大学多摩永山病院 外科 助教
35. 目黒 英二 函館五稜郭病院 外科 主任医長
36. 矢永 勝彦 東京慈恵会医科大学 外科学講座 教授
37. 山田 岳史 日本医科大学千葉北総病院 外科 助教
38. 横井 公良 日本医科大学千葉北総病院 外科 准教授
39. 横山 登 昭和大学附属豊洲病院 講師
40. 淀縄 聡 茨城西南医療センター病院 外科 外科部長
41. 渡邊 栄三 千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学 助教
42. 渡部 広明 大阪府立泉州救命救急センター 医長

本会において、上記42名が本年度新評議員として承認された。

織田成人担当理事より、2010年は4年に1回の評議員一斉更新の年であり、現評議員はもちろん、新評議員の方々も今回更新の対象となることが述べられた。更新についてはハガキで通知し、本学会ホームページより申請書類をダウンロードし、それに記入しお送りいただく

くということで、経費削減を目指すものである。

#### G. 保険診療検討委員会

山下裕一担当理事より、報告がなされた。

本学会から、新設要望項目7項目、改正項目3項目、特定医療保険材料3項目を要望し、ダメージコントロール手術（K636）、経皮的腹腔膿瘍ドレナージ（K637）が新設、要望項目として脾縫合術（K710）が保険点数の増加につながった。

#### H. ガイドライン委員会

真弓俊彦担当理事より報告がなされた。

##### ①急性膵炎の診療ガイドライン

2008年10月に厚労省の診断重症度判定基準が改訂されたことに伴い、ガイドラインの改訂が必要になり、改訂第三版を「急性膵炎診療ガイドライン2010」として2009年7月に出版した。また、英文版として『Journal of Hepato- Biliary- Pancreatic Science』の2010年1月号に掲載した。

##### ②急性胆管炎、胆嚢炎の診療ガイドライン、Tokyo Guidelinesの評価と改訂

急性胆管炎の前向き症例登録研究を「CLASS Tokyo study」として開始している。本学会としても多くの施設から、急性胆管炎の症例を是非登録いただきたいと考えている。登録方法に関しては、ホームページよりエントリーする形となる。先週、ミュンヘンにて開催された3rd combined meeting of Surgical Infection Society of North America and Europeで、この『日本版Tokyo Guide Line』についてシンポジウムを開催し、世界の方々にもこのガイドラインを知っていただく機会を得た。

##### ③消化管穿孔のガイドラインの作成

関連学会より委員を選定し、近日中にワーキング会議を開催する予定である。

#### I. ネットワーク委員会報告

橋爪 誠 担当理事より、報告がなされた。

昨年、本学会会員のメールアドレスの義務化が決まり、未登録の会員を中心にご案内したところ、全会員は昨年の35%から56%に、評議員は昨年35%から85%まで登録率の改善が

みられた。

オンライン投稿、あるいは症例の登録など、ホームページを利用した機会がこれから増すので、メールアドレスについては引き続きご協力をお願いしたい。

#### G. 学術委員会

水沼仁孝担当理事より、報告がなされた。

学術委員会は昨年の初頭に発足した。本学会が永続して活動を続けるための若手医師の獲得を主眼としている。特に教育関連の充実を図るため、ミニレクチャー、教育セミナー等の内容を定期的に監督して運営していくことを第一目的としている。

これについては、理事会において項目が挙げられ、第47回総会山下裕一会長と共に詰めを行う予定である。従って、学会運営のプログラムの見直し等についても提言を理事会において行った。第47回総会プログラムについて理事会においてあげられた項目をもとに提言していく。

#### H. 臨床データベース構造化検討委員会

宮川秀一担当理事より、報告がなされた。

腹部救急医学会データベース事業について

腹部救急疾患診療実態の把握、診療ガイドライン(胆道炎、急性膵炎ほか)の検証、適切な**clinical indicator**の設定および検証、多施設臨床研究の提案と実施、が目的である。将来的には、腹部救急疾患の臨床データベースを整備しつつ、どのような形で臨床的アウトカムを検証していくかということを考えていく必要がある。また、DPCデータから網羅的に疾患を抽出し、そこからデータを収集するという方法を検討中である。さらに、2011年の1月からナショナル・クリニカル・データベース(NCD)事業が始まる。これは日本外科学会を基盤学会として、消化器外科、その他外科系学会、手術を担っている学会が構築する手術症例のデータベースである。本学会としてもこのNCDに関与しデータベースを構築していく方向性をさらに検討させていただきたい。

#### I. 利益相反検討委員会

前谷 容担当理事より、報告がなされた。

本学会においても利益相反の申告を進めることになり、昨年4月に本委員会が発足した。昨年7月に『急性膵炎ガイドライン2010』が発刊されるにあたり、利益相反に関わる指針

の策定を進め、昨年6月に理事会で承認された。日本外科学会から承認をいただき、本学会に沿うように一部修正をして策定したものである。

役員等に関しては、2011年1月1日から開始し、過去2年分を申告していただく。学術集会発表者は第47回総会時より、2010年9月1日から開始し、過去1年分を申告していただく。また、学会機関誌への投稿については、学術集会発表者の導入時期と同様に、2010年9月1日から開始し、過去1年分を申告していただくこととした。

#### 4. 審議事項

〔評議員会開催日時の場合〕

平田公一理事長より、報告がなされた。

本学会評議員会は従来総会の1日目の夕刻に行っているが、プログラム上の構成から、2日目正午、あるいは総会前日とするなど状況に応じて当番会長と理事長で評議員会の開催日時を決定することが承認された。

#### 5. 第46回総会会長報告

第46回総会会長 塚田一博教授より、報告がなされた。

会期：平成22年3月18日（木）、19日（金）

場所：富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル富山

メインテーマ：腹部救急に吹く、あいの風

Courage 勇気、Challenge 挑戦、Concentration 集中

応募演題は合計で927演題集まった。本日17時現在で、有料入場者数1182名で、研修医が100名強の入場があった。

#### 6. 第47回総会会長報告

第47回総会会長 山下裕一教授より、報告がなされた。

会期：2011年3月17日（木）・18日（金）

会場：福岡国際会議場（福岡市）

メインテーマ：若さとProfessionalism

#### 7. 第48回総会会長の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

第48回総会会長として、金沢大学消化器・乳腺・移植再生外科の太田哲生教授より、立候補届けがあった。

本会において、金沢大学消化器・乳腺・移植再生外科の太田哲生教授が、第48回総会会長として承認された。

#### 8. 外科関連学会協議会の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

本会において、本学会として外科関連学会協議会の要望書に賛同することが承認された。

#### 9. 名誉会員・特別会員推戴の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

名誉会員推戴者

該当者なし

特別会員推戴者

兼松 隆之

亀山 仁一

権田 厚文

中谷 勝紀

成原 健太郎

原口 義座

藤原 利男

前川 勝治郎

宮澤 幸久

門田 守人

本会において、上記の先生が特別会員推戴者として承認された。

#### 10. 会長賞授与式

第46回総会塚田一博会長より、以下1名の先生へ会長賞が授与された。

会長賞受賞者： 神田 達夫 先生（新潟大学大学院 消化器・一般外科学分野）

会長賞受賞演題： 診療と研究のトピックス

「血中腸型脂肪酸結合蛋白測定による虚血性小疾患診断  
-基礎から臨床へ」

#### 1 1. 理事長賞授与式

平田公一理事長より、以下1名の先生へ理事長賞が授与された。

理事長賞受賞者： 杉山 宗弘 先生（国立成育医療センター 放射線科）

理事長賞受賞演題：診療と研究のトピックス

「外傷初療における外傷全身CT（外傷パンスキャン）の  
有用性」

#### 1 2. 名誉会員／特別会員推戴状授与式

平田公一理事長より、以下2名の先生に名誉会員推戴状が授与された。

跡見 裕 先生

伊藤 泰雄 先生

平田公一理事長より、以下1名の先生に特別会員推戴状が授与された。

幕内 博康 先生

### 議事録署名欄

署名人氏名： 谷 徹 (印) H22 年 6 月 3 日

---

署名人氏名： 村田 厚夫 (印) H22 年 6 月 8 日

---

理事長： 平田 公一 (印) H22 年 6 月 10 日

---